

特別講話

1日目 10月17日(木) 9:00~10:00
第1会場(広島国際会議場 B1F フェニックスホール)

「赤十字って、いったい…」～私の覚書帳から

日本赤十字社 社長 大塚 義治

「赤十字って、いったい…」～私の覚書帳から



日本赤十字社 社長

おおつか よしはる
大塚 義治

【学歴】

昭和45年3月 東京大学法学部卒業

【略歴】

昭和45年4月 厚生省入省
平成 6年9月 〃 大臣官房会計課長
8年7月 〃 〃 審議官
10年7月 厚生大臣官房長
11年8月 厚生省老人保健福祉局長
13年1月 厚生労働省保険局長
14年8月 厚生労働審議官
15年8月 厚生労働事務次官
16年7月 退官
17年4月 日本赤十字社副社長
17年4月 兼 学校法人日本赤十字学園理事長
令和元年7月 日本赤十字社社長

1 私にとっての赤十字・雑感

(1) 愛知万博・赤十字パビリオンの衝撃

私が赤十字に関わりを持つこととなった2005年、愛知県で開催された万国博覧会の「赤十字パビリオン」は、出展パビリオン中の最小であったにもかかわらず、大ブレイクを果たした。そのことが、私にとっては大きな衝撃であり、「赤十字って、いったい？」と考えさせられる強い契機となった。

(2) 人情から人道へ

デュナンの提唱からわずか1世紀半ほどの間に、人種も歴史も文化も異なる世界191に及ぶ国・地域で赤十字社・赤新月社が組織されている。これは驚異的なことと言ってよい。その力は何によってもたらされるのか。赤十字の理念「人道」とは何か、ということと併せて考えてみたい。

(3) 東日本大震災など～思い浮かぶ赤十字の人々

我が国の歴史に刻まれる大災害となった2011年の東日本大震災は、日赤にとっても、災害救護活動のみならず、業務全般にわたり大きな経験と様々な教訓を得るものとなった。また、今日の日赤があるのも、多くの先達、ボランティアなど累代の人々の赤十字スピリットに溢れた活動・支援によるものであり、私は、折に触れてそうした方々のことを思い浮かべる。

2 国際赤十字の動き～連盟100周年を迎えて

(1) 近衛連盟会長の誕生とその業績

国際赤十字・赤新月社連盟は今年100周年を迎えたが、2009年、その第15代会長に、アジアからは初めてとなる近衛忠輝・日赤社長が就任した。そのこと自体、赤十字史に新たな1頁を記すものであるが、近衛会長は数々の業績を残され、各国姉妹社からの高い評価と尊敬を集めた。

(2) 直面する様々な課題

激動する国際情勢や多発する大規模な自然災害の中にあって、国際赤十字運動も様々な課題に直面している。コンプライアンスの問題を含む各国赤十字社の組織基盤の強化や、「中立」原則と赤十字スタッフの安全確保など多岐にわたり、また、いずれも深刻で解決には時間と困難を伴うものである。

(3) 核兵器廃絶運動と赤十字

ヒロシマ、ナガサキという世界で唯一の被爆国である我が国及び国民にとって、核兵器廃絶は悲願とも言える。赤十字は、人道を基本理念とする立場に立って、核兵器廃絶に取り組んでいるが、その道はなお遠いと言わざるを得ない。

3 赤十字医療事業の展望

(1) 赤十字医療事業の歴史に学ぶ

赤十字医療事業も、それぞれの時代によってその役割、有り様の変化を重ねながら現在に至っている。時にその足跡を振り返り、歴史に学ぶ意義も少なくない。

(2) 赤十字医療事業の今日的役割と課題

地域医療構想、地域包括ケア体制の整備といった医療改革が進められる中で、赤十字医療事業も変革を迫られている。公的医療機関とは何か、他の公私の医療機関との役割分担と連携はどうあるべきかなど、常に自らの存在理由を検証・点検する姿勢が求められる時代となっていると考える。

